

1

お茶飲料市場への参入と「アサヒお茶どうぞ」の誕生

Point

- 1 「缶入りウーロン茶」の登場をきっかけにお茶飲料が成長、朝日麦酒(株)では缶入り麦茶「むぎ太郎」を手始めにウーロン茶やほうじ茶を発売し、新ジャンルに参入した。
- 2 緑茶の分野に本格参入するとともに日本茶飲料の商品を「アサヒお茶どうぞ」に統一、麦茶や緑茶をはじめ、のちに大ヒットとなる「十六茶」を発売した。

お茶飲料市場への参入

清涼飲料市場では、1980年代に入って容器・容量の多様化とともに、スポーツドリンク、ウーロン茶、緑茶、ミネラルウォーターといった、当時「ニュータイプ飲料」と呼ばれた新しいカテゴリーの商品が続々と登場した。これらを後押ししたのが急成長したコンビニエンスストア（コンビニ）やスーパーマーケット（スーパー）だった。とくに、弁当やおにぎりと一緒に買われることが多いお茶飲料は、コンビニ店舗数の増加とあわせるように販売数量が伸長し、1982（昭和57）年に大型PETボトルが導入されるとスーパーなどの量販店の店頭にも多く並ぶようになった。

お茶飲料のなかで大きなインパクトを与えたのが、ウーロン茶だった。それまで甘いものが主流だった清涼飲料市場で、ウーロン茶は無糖飲料という新しいジャンルを創り出した。無糖飲料にはその後、緑茶やブレンド茶などが加わり、お茶飲料の最大カテゴリーとして成長するが、無糖飲料はお茶にとどまらず、清涼飲料市場で幅広い商品に採用されて定着していった。

ウーロン茶が市場に初めて登場したのは(株)伊藤園が1980年に一部地域で販売を開始し、翌1981年3月に全国発売した「缶入りウーロン茶」で、同年12月にはサントリー(株)（現・サントリー食品インターナショナル(株)）から「サントリーウーロン茶」も発売された。ウーロン茶は、肉料理や油料理に合うだけでなく、健康維持に役立つといわれ、ユーザーの健康志向にも合致したことで急激に市場を拡大していった。

こうしたなか、朝日麦酒(株)では1983年4月、初めてのお茶飲料として缶入り麦茶「むぎ太郎」缶250gを発売した。翌1984年6月には本格的なブームに突入しつつあったウーロン茶市場に参入、「アサヒビール謹製 缶入りウーロン茶」缶190gを発売した。無糖・無着色の自然健康飲料を特長に、中国・福建省の原料を用い、まろやかな滋味と甘み、飲んだ後のほのかな香りが好評を得た。

ウーロン茶ブームの一方で、日本茶飲料は1985年2月に伊藤園から「缶入り煎茶」缶190g（のち「お〜いお茶」）が発売されたことをきっかけに市場での展開が始まっていたが、日本茶飲料は“買って飲む”という習慣がなかったためか、



「むぎ太郎」缶250g(1983年)



「アサヒビール謹製 缶入りウーロン茶」缶190g(1984年)

当初は弁当と一緒に販売される程度にとどまっていた。朝日麦酒では1986年11月、本場の静岡茶葉を使用し、軽い味と豊かな香りを実現した「ほうじ茶」缶340gを発売、日本茶飲料の分野に初めて進出した。また、「ほうじ茶」の発売と同時に「ウーロン茶」缶340g、翌1987年3月に「むぎ茶」缶340gを加えた3品を190g商品と同じ価格で市場に投入、割安感を強調するとともに健康志向の消費者の取り込みを図った。

日本茶飲料の商品を「アサヒお茶どうぞ」に統一

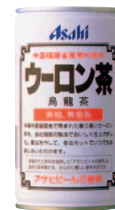
朝日麦酒では早くから日本茶飲料の商品開発を進めたものの、1990(平成2)年の販売数量は約157万函で、清涼飲料全体の2%を占めるに過ぎなかった。ただ、日本茶飲料の伸び悩みは業界的な傾向でもあり、同年の緑茶の総生産量に占める比率は1%にも満たない水準だった。

こうした状況のもとで、1991年4月に「アサヒ初摘み茶」缶340gを発売、緑茶分野に本格的に参入した。「アサヒ初摘み茶」には4～6月ごろに摘まれた静岡産やぶきた種の初摘み茶葉を贅沢に使用し、抽出時の温度管理に工夫を凝らすことによりフレッシュな香りと爽やかな味を実現した。

1992年には、当社の前身であるアサヒビール飲料(株)が日本茶飲料の商品を「アサヒお茶どうぞ」に統一して、同年1月に「アサヒお茶どうぞ むぎ茶」を発売、さらに4月に「アサヒお茶どうぞ 初摘み茶」缶340gをリニューアルするなど、順次、新シリーズへの切り替えを開始した。その後も、1993年3月に静岡県産の選り抜かれた茶葉を使用し、一番煎じだけで仕上げた「アサヒお茶どうぞ 緑茶」缶340gと、後述するようにのちに爆発的ヒットとなる「アサヒお茶どうぞ 十六茶」缶340gを、同年9月に一番茶のみで仕上げたプレミアムタイプの「アサヒお茶どうぞ ほうじ一番茶」缶340gを発売した。さらに、翌1994年2月には静岡・宇治・嬉野の厳選された茶葉をブレンドし、すっきりとした旨みと日本茶特有の香りを特長とする「アサヒお茶どうぞ 銘茶三撰」缶340gを発売、同年4月には「アサヒお茶どうぞ 麦茶」缶340gなどをリニューアルし、シリーズを拡充した。



「ほうじ茶」缶340g
(1986年)



「ウーロン茶」缶340g
(1986年)



「むぎ茶」缶340g
(1987年)



「アサヒ初摘み茶」缶340g
(1991年)